

令和2年度(2020年度)学校評価表(中間報告)

評価基準 A:達成している B:若干の改善余地がある C:達成していない

教育方針(学校教育目標)	目指す学校像(中・長期的目標)
<p>勤労青少年に教育の機会を与える定時制課程設置の本旨に則り、「働きながら学ぶ」ことへの強い意志と堅い信念を培い、工業技術の基礎知識・技術を習得させ、もって社会の有為な形成者を育成する。</p>	<p>・長年培った伝統を礎に、地域からの信頼を一層高めるとともに、地域社会や産業を担う人材を育てる。                      ・ものづくりを通して基礎技術や知識の定着を図り、職業人としての姿勢を確立する。                      ・生徒一人一人が達成感を味わい、生きる力を身に付けるために教育活動を推進する。</p>
今年度の重点目標	
<p>①多様化する生徒を深く理解し、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな教育活動を行う。                      ②自己実現に向けてキャリア教育を充実させ、豊かな人間性を育み、生きる力を育てる。                      ③人権を尊重し、自己効力感を持たせ、いじめや体罰のない安全・安心な学校をつくる。</p>	

領域	分野	重点	具体的目標	具体策	評価の観点
教育活動	学習指導	①	1 基礎基本を大切にしたりわかりやすい授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実情に応じた興味関心の持てる教材を考え、プリントを用いるなどきめ細かな指導をする。</li> <li>・必要に応じて、個別の学習指導等を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実情を理解して、学び直しを取り入れた学習ができたか。</li> <li>・生徒が授業を理解し、意欲的に取り組むことができたか。</li> </ul>
		②	2 工業科目の特色を生かし、生徒が興味関心を持って意欲的に学べるよう工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味関心を引き出す指導及び教材を工夫する。</li> <li>・個々の意欲を引き出すために資格取得等を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導及び授業に有効な工夫ができたか。</li> <li>・生徒が資格取得に積極的に挑戦したり、課題研究発表会に意欲的に取り組めたか。</li> </ul>
			<p>中間評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に第1回授業アンケートを行い、その結果を授業担当者に伝え、授業改善につなげた。</li> <li>・コロナ禍で、授業内容を工夫し、生徒の負担を最小限にし、効率的に行うために、実物を見せたり、教科間で連携するなどしているが、基礎学力定着のためのPDCAサイクルの構築は十分ではない。</li> <li>・技能検定取得を含めた指導で、コロナ禍にあっても、技能習得に向けて努力する生徒が増加している。その結果、技能検定や各種資格に挑戦する生徒も増えている。</li> <li>・課題研究発表会に向けて、協力しながら作品づくりに熱心に取組んでいる。</li> </ul>		
	生徒指導	①	1 基本的な生活習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や家庭とのコミュニケーションを大切に、丁寧な生活指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の無断欠席や遅刻、早退などが減っているか。</li> <li>・お互いが気持ち良く挨拶ができるようになったか。</li> </ul>
		③	2 校内巡視の実施、事故防止の呼びかけ等の活動を積み重ねることで、安全・安心な学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正門での立ち番および校内巡視等を積み重ねることで、安全・安心な学びの場を保障する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心に寄り添いながら、安全・安心な学びの場を構築することができたか。</li> </ul>
			<p>中間評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と職員が互いに気持ち良く挨拶をし、生徒の微妙な変化も見逃さないよう心がけている。</li> <li>・生徒・保護者とこまめに連絡を取り合うことにより無断での欠席は減少しているが、コロナ禍による生活の変化や、自身の気の緩みから遅刻早退が多い生徒もいる。</li> <li>・コロナ禍の影響で、交通講話や平和教育等は下半期に実施しなければならない状況になっている。</li> <li>・ホームルーム等で、生徒の交通安全への意識向上をはかっている。特にバイクや自動車の運転については、生徒の意識向上も含めさらなる指導の必要性を感じる。</li> </ul>		
	進路指導	①	1 生徒の適性や希望を生かした進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対し就労支援をし、確かな職業観を育成する。</li> <li>・講演会や個別面談等を通じて恒常的なキャリア教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が希望・意欲を持ち、納得した進路実現ができたか。</li> </ul>
		②	2 職業人としての自覚と意欲を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりや実習体験などを通して適切な職業観を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりに携わる意識を育む指導が適切に行われたか。</li> </ul>
			<p>中間評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であったため、企業見学は実施できなかったが、赤田工業の社長さんより講話をしていただき、働くということやものづくりに対する興味関心が高まった。就職にもつながった。</li> <li>・就職指導では懇談を丁寧に行い、現在就労している企業との連携やOB、過去に連携した企業からの求人等を有効に活用することにより、生徒・保護者が納得する進路支援を行うことができた。</li> </ul>		
	キャリア教育	②	1 自己の在り方、生き方を考え、将来設計と社会参画の意識を醸成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験発表文を書き、全校の前で発表し合う。</li> <li>・社会人講話や進路講話を実施する中で、自己分析を図れる能力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が生活体験発表文が適切に書け、皆の前で発表できたか。</li> <li>・生徒が意欲的に社会人講話や進路講話に参加できたか。</li> </ul>
②		2 仕事や社会で必要となる力(基礎的・汎用的能力)を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労体験や学習活動・特別活動等を通し、相互に理解し合い自己の心をコントロールしながら、社会人としてのマナーやルールを守ることや、基礎的・汎用的能力を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が就労体験をして、基本的な生活習慣が身に付いたか。</li> </ul>	
②		3 様々な学習や体験を通して勤労観・職業観の形成を促し、卒業後の進路選択に結びつける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習への積極的な参加や、日中の就労を支援し将来設計を図る。</li> <li>・日々の境域活動を通して、卒業後の社会人としての自立を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が規則を守り、安全に実習に取り組めたか。</li> <li>・就労支援を積極的に行うことができたか。</li> </ul>	
	<p>中間評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年および校内生活体験発表大会では全員の生徒が皆の前で体験文を発表することができた。</li> <li>・10月にはキャリア教育講演会を行い、生徒の就労に対する意識向上につなげた。</li> <li>・就労先の紹介を行うことにより、8割を超える生徒が就労し、社会と関わりを持ちながら、職業観を伸ばしている。</li> </ul>				

教育活動	生きる力		具体的目標	具 体 策	評 価 の 観 点
		③	1 行事やクラブ活動など様々な活動を通して自信と希望を持たせる。	・学校行事や生徒会活動等に積極的に参加させ、達成感を育むと共に、協調性を培う契機とする。	・生徒は積極的に生徒会活動や学校行事に参加し、達成感や自信を持つことができたか。
		③	2 他者を思いやる心や公共心を育てる。	・清掃・実習・クラブ・ボランティアなどの活動を通じ、責任を持って自分の役割を果たし、他者を認め互いに協力できる関係を築く。	・生徒が相互にかかわりを深めあい、仲間と協力して活動する喜びを体験できたか。
		中間評価			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあったが、新入生歓迎会、生徒総会、夏季クラスマッチなどの生徒会行事を通して、生徒相互で協力しながら活動する姿勢が見られた。</li> <li>・コロナ禍でクラブ活動が制限され、全国大会も中止される中、夏季クラスマッチを目標に、生徒が相互に関わり合い、互いの競技力向上に努める姿があった。</li> <li>・コロナ禍で北信越大会、全国大会が中止になる中、モチベーションを維持しながら、「ものづくりコンテスト」旋盤作業部門に1名が挑戦し、長野県大会で優勝した。</li> </ul>			
学校連携	校外連携		具体的目標	具 体 策	評 価 の 観 点
		①	1 地域との連携を深め、地域の支援を得つつ、より充実した教育活動を図る。	・教育振興会との連携を大切にしながら、生徒の就労先との連絡を密にし、五者懇談会(保護者・就労先・職員・卒業生・在校生の五者)への参加を呼びかける。	・様々な機会を通して、教育振興会との連携を深めることができたか。 ・五者懇談会が充実したものになったか。
		①	2 定時制の特性や実態をよく理解してもらい、学ぶ意欲と自覚を持つ入学希望者の確保を図る。	・ホームページ・学校説明会・体験入学等を通して本校定時制の特徴を理解していただくように努める。	・ホームページの更新が十分に行えたか。 ・中学生及びその保護者、中学校職員に本校定時制の特徴を理解していただくことができたか。
		中間評価			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で五者懇談会は11月中旬に延期となったが、卒業生、保護者、就労先と連携して実施する。</li> <li>・教育振興会からは、新入生歓迎会、終業式での皆勤賞、生徒の生活体験発表大会で激励の言葉をいただき、生徒の意欲の向上につながった。</li> <li>・ホームページのこまめな更新を心掛け、本校定時制の実態を発信することができた。</li> <li>・地元企業と連携を図り、「ものづくり」への興味関心、就労の意味・意欲の喚起をしている。</li> </ul>			
学校連携	研修体制		具体的目標	具 体 策	評 価 の 観 点
		①②	1 多様な生徒の要求に対応できる教員の資質の向上を図る。	・職員研修会等を実施し、キャリア教育・特別支援教育等の教育課題に対して職員が理解を深め、全員での取り組みを行う。	・研修会等を通して教育課題への理解が深まったか。 ・研修成果を生徒に還元できたか。
			中間評価		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会参加者はその内容を職員に伝達し、生徒に還元できるようにしている。</li> </ul>			
学校連携	校内組織		具体的目標	具 体 策	評 価 の 観 点
		①	1 少人数の利点を生かし、分掌機能の連携と充実を図る。	・毎日の連絡会を有効に利用し、係相互の連携を図る。	・係の意図をよく理解し、学校全体でそれに取り組むことができたか。
			中間評価		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼、夜の連絡会を有効に活用し、職員相互の連絡を密に取ることができている。</li> </ul>			